



京大広報

No. 550

2000. 10



総合情報メディアセンター

関連記事本文946ページ

目次

大学の動き

第1回運営諮問会議開催	944
長尾総長のドイツ連邦共和国訪問	945
長尾総長の中華人民共和国訪問	945
部局長の交替	945
全学シンポジウム 「京都大学における教育評価」の開催	946
部局の動き	
総合情報メディアセンター新棟の 一部運用開始	946
医療技術短期大学の動き	
医療技術短期大学部説明会	947
日誌	947
訃報	948
随想 21世紀に向けた「総合生産学」への構想 名誉教授 人見勝人	949
洛書 アメリカの教養カレッジを訪ねて 江原武一	950

公開講座

エネルギー科学研究科公開講座 21世紀にむけて - エネルギー 環境 材料の諸問題を探る -	951
- 終了報告 - 医療技術短期大学部 第13回健康科学公開講座2000 ~21世紀医療へのいざない~	952
総合人間学部, 人間・環境学研究科公開講座 21世紀の地球環境と人材養成	953
話題	
総合博物館外壁照明試験点灯	954
梨花女子大学主催ワークショップへの参加	954
国立七大学総合体育大会2連覇	955
近畿地区国立大学体育大会	957
体験授業「放射線って何だろう」	958
お知らせ	
附属図書館公開展示会 連歌の世界	959
総合博物館(南棟)完成に伴う 通路変更について	960

大学の動き

第1回運営諮問会議開催

第1回運営諮問会議が7月21日(金)に総長室において、青木昌彦委員、荒巻禎一委員、井村裕夫委員、大西正文委員、館 糾委員、中川久定委員、米沢富美子委員の出席のもと、開催された。

運営諮問会議の目的

運営諮問会議は、国立学校設置法第7条の2に基づき、本年4月から各国立大学に設置され、各界の有識者に委員を依頼し、大学の運営に関する重要事項について総長の諮問に応じて審議し、総長に対して助言又は勧告を行い、大学の運営の改善・発展に資することを目的としている。

運営諮問会議委員

青木 昌彦	スタンフォード大学経済学部教授
荒巻 禎一	京都府知事
稲盛 和夫	京セラ(株)名誉会長・京都商工会議所会頭
井村 裕夫	科学技術会議議員
大西 正文	大阪ガス(株)相談役・(財)京都大学教育研究振興財団会長
大南 正瑛	京都橘女子大学長
館 糾	鐘淵化学工業(株)相談役・(財)基礎化学研究所長
中川 久定	京都国立博物館長
中坊 公平	弁護士
中村 桂子	JT生命誌研究館副館長
米沢富美子	慶應義塾大学理工学部教授
印は委員長 (敬称略・50音順)	

主要な意見

地域社会との関係について

京都大学の創立当初の沿革等に照らしても、地域社会や地方自治体との連携・交流を深め、地域に開かれた教育研究機関となるように工夫する必要があるのではないかと。

社会への貢献について

京都大学のもっている知的資源を社会に対して積極的に発信するなど、大学の社会貢献の機能を高めていく必要があるのではないかと。



京都大学の特色の発揮について

京都大学固有の特色を発揮し、その存在意義を広くアピールする必要があるのではないかと。

教養教育の改善について

真のリーダーを育成するためには、幅広い教養を身につけさせることが重要であると思われるので、教養教育の重要性を認識し、その改善充実を図る必要があるのではないかと。

外国語教育の充実について

国際社会で活躍できるような人材の育成を図るため、外国語教育の充実を図る必要があるが、そのためには、京都大学における外国語教育実施のための責任体制を確立することが重要ではないかと。

教員評価の改善について

教員の評価は、研究活動中心に行われる傾向にあるが、教育活動に対する評価も重視する必要があるのではないかと。

若手研究者の育成について

優秀な若手研究者を育成するため、ポストドクトラルフェロー(PD)や大学院学生への支援を充実させる必要があるのではないかと。

長尾総長のドイツ連邦共和国訪問

長尾 真総長は、7月7日から13日まで、ドイツ連邦共和国に出張した。

この間、ハノーバー大学を訪問するとともに、ド

イツ科学機構の招へいにより国際会議「世界的対話 “科学と技術 - 未来を考える”」において講演を行った。

長尾総長の中華人民共和国訪問

長尾 真総長は、8月19日から26日まで、中華人民共和国に出張した。

この間、北京大学、清華大学、及び国家教育部等を訪問し、それぞれ学長等の関係職員と研究・教育について意見交換を行った。また、北京国際会議場

で開催された世界コンピュータ会議に出席し、基調講演を行った。

なお、今回の出張には、朝倉信裕総務部長が同行した。

部局長の交替

医学研究科長・医学部長

本庶 佑医学研究科長・医学部長の任期満了に伴い、その後任として中西重忠生命科学研究所教授（高次生命科学専攻認知情報学講座担当）が、10月1日医学研究科長・医学部長に任命された。任期は平成14年9月30日までである。



全学シンポジウム「京都大学における教育評価」の開催

全学シンポジウム「京都大学における教育評価」が、8月30日（水）～31日（木）の1泊2日の日程で、大津プリンスホテルにおいて、長尾 真総長はじめ全学の教職員約120人が参加して開催された。

本学では、「京都大学の教育を考える」をテーマとして、平成8年を第1回に平成10年まで3回の全学討論集会を開催してきたが、時代の要請する教育評価については、学部等においてはいくつかの試み



がなされているものの、これまで全学的な検討の機会はなかった。

シンポジウムの1日目は、国立学校財務センター天野郁夫教授による基調講演から始まり、パネルディスカッションでは、パネリストの高等教育教授システム開発センター大山泰宏助教授、林 哲介総合人間学部長、工学研究科荒木光彦教授の各教官から評価システムの構築等に関する提言があり、活発な議論がなされた。

夕食後のイブニングディスカッションでは、参加者が3グループに分かれて、本学の教育の現状分析を中心とした討議が夜遅くまで続いた。

2日目は、イブニングディスカッションの各グループから討議内容の報告を受け、質疑応答と取りまとめが行われた。

今回のシンポジウムで得られた成果が、今後の教育の改善に向けた検討に生かされることが期待される。

部局の動き

総合情報メディアセンター新棟の一部運用開始

総合情報メディアセンターでは、新棟完成に伴い楽友会館等からオープンスペースラボを移転し、9月4日より建物の一部を使って運用を開始した。

当日は、長尾 真総長から図書館、博物館と並ぶ自学自習の拠点として期待しているとの挨拶があり、続いて長尾総長、宮崎 昭副学長、赤岡 功副学長、大澤幸夫事務局長、富田眞治総合情報メディアセンター長によるテープカットが行われ、さっそく学生達がパソコン等を利用した。

このオープンスペースラボは、パーソナルコンピュータ、ワークステーション等が設置され、学生自身が授業とは関係無く自由に利用できる施設として1階部分を提供するものである。



（総合情報メディアセンター）

医療技術短期大学の動き

医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月21日（金）午後1時30分より、医療技術者を志す高等学校2・3年生及び進路指導担当教諭を対象に、大学説明会を開催した。

説明会では、まず京都教育文化センター（京都市左京区聖護院川原町）において、参加者全員に本短期大学部の特色、入試の概要、総合教育及び各学科の教育内容等の紹介を、資料とスライドを用いて説明した。

次に、会場を本学に移し公開施設の見学、学科別個別相談を行った。

今年度も昨年に引き続き、参加者が自由に各学科の公開施設を見学し、学科別相談に参加できることとした。各学科の公開施設見学では、実際にさまざまな実習等の体験をし、学科別相談では、各学科での学生生活や入試に関する質問に応じるなどの個人相談を行い、参加者と教官、卒業生及び在校生との懇談の機会を設けた。

この説明会への参加者は、高校生、進路指導担当

教諭及び社会人合わせて214人であった。

また、参加者に対しこの説明会に関するアンケートを行った結果、参加者の63.4%が回答し、その95.4%から「説明会が参考になった」との回答を得た。



人形を使つての看護の体験実習

（医療技術短期大学部）

日誌 2000.8.1～8.31

8月19日 総長、世界コンピュータ会議出席及び北京大学、清華大学等における教育・学術交流に関する調査のため中華人民共和国を訪問（26日まで）

30日 全学シンポジウム「京都大学における教育評価」（31日まで）

訃報

このたび、^{ささしまさだ お}笹嶋貞雄名誉教授、^{さかた よしお}坂田吉雄名誉教授、^{あすか いまさみち}飛鳥井雅道名誉教授が逝去されました。

ここに、謹んで哀悼の意を表します。

以下に各名誉教授の略歴、業績等を紹介いたします。

笹嶋 貞雄 名誉教授



笹嶋貞雄先生は、8月9日逝去された。享年80。

先生は、昭和20年京都帝国大学理学部地質学鉱物学科を卒業、同23年福井師範学校助手、同27年福井大学学芸学部講師、助教を経て、同38年京都大学理学部助教授、同46年同教授に就任、物理地質学講座を担当された。昭和59年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、花園大学教授を務められた。

先生のご専門は、物理地質学全般にわたるが、特

に岩石磁気学・古地磁気学に関する分野で優れた業績を残された。岩石磁気学の分野では、チタノマグネタイトに関する多くの基礎研究、玄武岩に見られるN型の自己反転現象の解明、堆積残留磁気の研究等がある。さらにこれらを基礎として、地殻変動帯における地質構造の解明に古地磁気学を導入して幾多の業績をあげられた。その対象は、日本列島をはじめとして、東南アジア、韓国、中国など東アジア全域に及んだ。

これら一連の功績により、平成6年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

(大学院理学研究科)

坂田 吉雄 名誉教授



坂田吉雄先生は、8月24日逝去された。享年93。

先生は、昭和5年京都帝国大学文学部哲学科を卒業後、本学人文科学研究所助手、助教授を経て、同28年同教授に就任、同45年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、法学研究科、文学研究科等において教育指導に当たられる一方、研究所の管理運営にも貢献された。

本学退官後は、昭和54年まで京都産業大学教授を務められた。

先生のご専門は、日本近代史であり、なかでも日本近代化に関する理論的・実証的研究において優れた研究業績をあげられ、戦後アメリカの日本研究にも大きな影響を与えられた。主な著書に、『町人』、『明治維新史』、『天皇親政』等がある。

これら一連の功績により、昭和52年11月勲三等旭日中綬章を受けられた。

(人文科学研究所)

飛鳥井 雅道 名誉教授



飛鳥井雅道先生は、8月31日逝去された。享年65。

先生は、昭和32年京都大学文学部文学科を卒業後、本学人文科学研究所助手、助教授を経て、同56年同教授に就任、平成10年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、人文科学研究所の共同研究を主宰するとともに、文学研究科で学生の指導にあたり、また国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員や国

際日本文化研究センター運営協議員に就任し、学外でも幅広く活躍された。

先生のご専門は、日本近代文学と日本近代思想史研究であるが、文学や歴史という枠組みをこえて諸領域を総合する方法で、日本の近代文化の特質を明らかにされた。独自の研究領域の形成により、ひろく人文・社会科学研究者に強い刺激を与えられ、『日本プロレタリア文学史論』、『文明開化』、『中江兆民』等数多くの優れた業績を残された。

(人文科学研究所)

随想

21世紀に向けた「総合生産学」への構想

名誉教授 人見 勝人

<http://www.biz.ryukoku.ac.jp/~hitomi/>

正に“光陰矢の如し”本学を停年退官になって早や5年半が過ぎました。この度本広報への寄稿を求められ、まことに光栄に存じ、以下駄文を供させていただきます次第です。



経済白書が「もはや戦後ではない」という名言を呈した前年の1955年に工学部機械工学科を卒業して、大学院で奥島啓式先生（現、名誉教授）のご指導の下、切削工学の研究に従事し、修士論文の英抄訳が当時の「工学部紀要」に掲載されたのが機縁となり、アメリカのペンシルバニア州立大学に Research Assistant として雇用されました。帰国後、本学、東京工業大学 [ドイツ・アーヘン工科大学]、大阪大学 [ペンシルバニア州立大学]、そして本学 [アメリカ・オハイオ大学] と放浪を続ける羽目になり（〔 〕内はその間の客員教授職）、その上中国・韓国・シンガポールなどで短期の集中講義に招聘されたりで、本学一筋の方々からすれば、節操の無い旅鳥の学究生活を送ったといえましょう。

停年後佛縁あって350年の歴史を矜持する龍谷大学で、今はやりの社会人教育に従事しておりますが、それがこれまでの工系でなくて文系 - 経営大学院ビジネス・コース担当なのです。これには、元来は固有技術を専攻しながら、アメリカの2大学でIE（インダストリアル・エンジニアリング）学科、東京工大で経営工学科に所属して管理技術・情報技術を考究したことがベースになっているわけです。それに50歳代後半、実務家の学位と目される「技術士」の試験に挑んで、この国家資格を取得し、加うるに、兼任の中国・南京大学および顧問を仰せ付けている南京経済師協会から「経済師」を名乗らせていただけましたことが、第一線で活動する社会人に接する私の基本的姿勢になっております。

このコースは、経営学修士号を授与するのですが、これは“MBA”(Master of Business Administration) - 一般の修士号が‘academic degree’であるのに対し‘professional degree’で、名刺で肩書き

に明記して職業資格とでき、専門職が益々重視されようとしている現今、世界中で通用するパスポートの役目を果たします。龍谷大学では、老若男女、あらゆる業種の人材が受講していますので、クラスは多士済々で活気に富み、恰も“真剣勝負”の様相を呈し、教師側も理論と実践両面で大いなる緊張を強いられます。

私がめざしているのは、技術の判る Techno-MBA です。この世に有用性をもたらす「生産」の技術とマネジメント、そしてその経済性・社会性を基盤に、「生産システム工学」を講じています。大阪大学時代に著わした同名の書物 拙名に併記のウェブサイト + book-mse.html が幸いにも版を重ねて1/4世紀が経ち、またその英訳本“Manufacturing Systems Engineering”がロンドンで刊行されて Second Edition 同 book-eng-mse.html になり、20年のロングライフを維持していますが、新千年紀に入り、間もなく新しい21世紀を迎えようとする現在、更なる進展と脱皮を志向し、モノ造り・サービスを包含するトータルな生産の学問のあり方を「総合生産学」

同 pim.html と銘打って展開・論述したい気持ちに駆られております。それを通じて、瑞穂の国と祝福された我が国の農業がすっかり疲弊してしまい、戦後の復興の主役を務めてきた製造業さえ、1998年（最新データ）にはそれに携わる労働人口の比率が21%、産出額が34%、GDP（国内総生産）に占める割合が23%にまで落ち込み、製造企業・事業所数も下落の一途を辿っていて、地道ながらも国家として欠かせないモノ造りが衰退してしまう危機に直面しているのに歯止めをかけ、環境に調和する社会的な“生産エクセレンス (Manufacturing Excellence)” 同 me.html, eng-me.html を高揚したく思う昨今です。

終りに臨み、京都大学並びに所属させていただきました工学部の一層の発展・繁栄を祈念申し上げます。

（ひとみ かつんど 元工学部教授 平成7年退官、専門は生産システム工学・産業システム論）

洛書

アメリカの教養カレッジを訪ねて

江原 武一

アメリカ東海岸にあるペンシルベニア州の州都フィラデルフィア市の西側、車で行くとダウンタウンから30分足らずのところ、スワスマア、プリン・マア、ハバフォードといった小規模の郊外都市が並んでいる。これらの何の変哲もない小都市がアメリカの大学関係者の間でよく話題になるのは、いずれも全米レベルで著名な一流教養カレッジがある大学町だからだ。

私は本年（2000年）3月下旬に、国際交流関係の大学事情調査のために、本学のスタッフ（留学生センターの教授1人と事務官2人）と一緒に、スワスマア・カレッジとプリン・マア・カレッジを訪問したので、その折の感想を少し記してみたい。

アメリカには現在、多種多様な大学が3,600校ほどあるが、その中核にあるのは研究大学と教養カレッジである。研究大学は学部教育に加えて博士課程の大学院教育を提供し、研究活動が非常に活発な大学である。ハーバード大学やカリフォルニア大学バークレー校などの大規模銘柄総合大学を含めて115校あり、アメリカの全学生の18%が学んでいる。

教養カレッジは637校あるが、その上位を占める166校はオックスブリッジのコレッジをモデルにして、アメリカで独自に発達した大学であり、優秀な学生を受け入れ、教養教育主体の優れた学部教育をしていることで知られている。その大部分は私立の全寮制の小規模校で、田園地帯や小都市にあり、さまざまな専門分野を専攻する大学教員と学生が、一つの共通の知的・美的文化とでもいうものを共有することをめざしている。この教養カレッジの上位校は全学生の2%にあたる27万人しか受け入れていな

いが、卒業生の多くは他大学の文理系大学院や医学、法学、経営学などの専門大学院に進学するので、研究大学の学部カレッジとともに、アメリカの学部段階のエリート養成校である。

今回訪問した2つのカレッジは、こうした特徴をもつ教養カレッジの典型例といってよいだろう。どちらも芝生が敷きつめられたキャンパスに、研究講義棟や学生寮、図書館、カフェテリアなどが計画的に配置されているため、キャンパス・ツアーをすると、それだけで入学してみたくなくなる。授業も大部分が15人以下の小規模クラスで、大学教員と学生との関係は緊密である。大学教員は研究の面でも生産的だが、それに加えて、学生の教育に熱心なのはいうまでもない。

本学のスタッフの目からみると、大学改革の際に参考になるのは、研究大学の改革例かもしれない。しかし大学教育の改革では教養カレッジの方がはるかに熱心で、さまざまな改革を試みている。実際に、アメリカの研究大学のなかにはそうした改革を参考にし、学部教育のカリキュラムや学生寮を整備したところも少なくない。研究大学にとって学部学生は不可欠の存在であり、彼らの学習環境の改善は研究センターの研究大学にとっても死活問題だからである。本学では大学院大学化に伴って、学部教育がおろそかになるのではないかと危惧されている。抜群の基礎学力と潜在能力がある学生を受け入れているのだから、本学でもそうした学生が豊かな将来像を描けるように、学習環境を整備する必要があるように思われる。

（えはら たけかず 大学院教育学研究科教授）

公開講座

エネルギー科学研究科公開講座
21世紀にむけて
エネルギー，環境，材料の諸問題を探る

1. 日 時 11月11日(土), 18日(土) 午後1時～4時
2. 会 場 工学部物理系校舎
3. 演題及び講師
- 11月11日(土)
- 「高品位エネルギーとしての核融合」 教授 吉川 潔
未来社会を展望しつつ核融合エネルギーをはじめとする高品位エネルギーの新たな技術的探求と意義について考える
- 「今のエネルギー消費構造で環境は守れるのか？」 教授 笠原 三紀夫
エネルギー消費と環境の問題で看過されている不可解な事例に着目して環境問題の見直しと新たな対策を探る
- 11月18日(土)
- 「アルミもチタンも電気の缶詰 チタンは国産」 助教授 鈴木 亮 輔
優れた金属材料であるチタンの製造と性質について紹介し、他の有用金属と比較しつつその技術的課題と新しい活用の可能性を考える
- 「超高温プラズマの世界を探る」 教授 近藤 克 己
超高温プラズマから如何にしてエネルギーを取り出すか、その探求の努力を顧みつつ未来にむけて新たな進展を目指す
4. 受講料 4,500円(テキスト代を含め、全講義を通しての受講料)
5. 申込期間 10月16日(月)～11月2日(木)
6. 申込方法 現金書留または直接持参によりお申し込みください。
現金書留の場合は以下のものを一緒にお送りください。
1. 受講料 2. 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入した用紙
3. 返信用封筒(自分の宛名、郵便番号を記入し、80円切手を貼ってください。
受講証、領収証、会場案内図をお送りいたします。)
持参の場合の受付期間：月～金 午前10時～12時、午後1時～3時
7. 問い合わせ 〒606 8501 京都市左京区吉田本町
及び申込先 京都大学工学部等総務課庶務掛 (工学部8号館1階西側)
TEL: 075 - 753 - 5000, 5005 FAX: 075 - 753 - 5065

テキストは当日会場受付でお渡しします。
本講座は「京の府民大学」対象講座です。
自家用車での来場は、ご遠慮ください。

- 終了報告 -

医療技術短期大学部第13回健康科学公開講座 2000 ~ 21世紀医療へのいざない ~

医療技術短期大学部では、7月1日から22日までの毎週土曜日、第13回健康科学公開講座を開催し、86人が受講した。

今回は「21世紀医療へのいざない」をテーマに、次世紀でさらに問題となるであろう、がん、ストレス、痴呆老人をとりあげ、移植医療、再生医学、医用工学、遺伝子診断・治療などをわかりやすく解説した。また、これら医療に欠くことができないこころのケアと癒しについても触れた。

講演題目、講師は次のとおりであった。

7月1日

移植医療 - 命のおくりもの -	医学研究科	教授	田中 紘一
再生医学がめざすもの	医学研究科	教授	山岡 義生
こころの移植と再生 - 豊かで貧しい時代の落とし穴 -	医療技術短期大学部	助教授	山根 寛

7月8日

遺伝とその仕組み - 子供はどうして親に似るのか? -	医療技術短期大学部	教授	天野 殖
遺伝子診断、治療とは	医学研究科	教授	中畑 龍俊
遺伝子組換え食品の現状と将来	食糧科学研究所	教授	村田 幸作

7月15日

大脳皮質の働きとは	医学研究科	教授	金子 武嗣
痴呆老人とのつきあい方	医療技術短期大学部	教授	山田 孝
ストレスと病気	医療技術短期大学部	教授	田原 明夫

7月22日

がんの発生とその予防 - 栄養免疫学の視点から -	医療技術短期大学部	教授	福田 善弘
これからの医療 - 医用工学の進歩とその応用 -	東京大学医学系研究科	教授	井街 宏
こころのケアと癒し	医療技術短期大学部	教授	菅 佐和子

(医療技術短期大学部)

総合人間学部，人間・環境学研究科公開講座 21世紀の地球環境と人材養成

総合人間学部と人間・環境学研究科の共催で，一般市民を対象として9月7日（木），8日（金）の2日間，人間・環境学研究科大講義室において，公開講座「21世紀の地球環境と人材養成」を開催した。受講生は約90人であった。

今回の公開講座は，我々が直面している地球環境問題とそれを解決する人材養成について，既存の学問分野の枠を越えて，様々な角度から総合的に一般市民の方々にわかりやすく解説した。

なお，講演題目，講師は次のとおりであった。

食料・農業を通じた環境科学と京大における研究教育構想

京都大学名誉教授・前副学長 古 澤 巖

政策・制度研究からみた人材養成

人間・環境学研究科教授 北 畠 能 房

グローバル時代の人間教育とは何か

人間・環境学研究科教授 佐 伯 啓 思

食習慣が支える21世紀の健康・長寿

人間・環境学研究科教授 家 森 幸 男

地域環境からみた総合教育のあり方

総合人間学部教授 福 井 勝 義

火山と地震の国のサイエンス・リテラシー

総合人間学部教授 鎌 田 浩 毅

（司会）鎌 田 浩 毅



（総合人間学部，大学院人間・環境学研究科）

話題

総合博物館外壁照明試験点灯

平成9年に発足した総合博物館では、自然史・技術史関連の史料を展示する新館が8月23日に竣工しました。

総合博物館は学術審議会の答申に従って設立されたもので、大学の社会の窓口としての機能を果たすことが期待されており、その意味が「ユニバーシティ・ミュージアム」という呼称に込められています。



総合博物館では、新館の建物自体も社会に開かれた大学のシンボルとすべく、施設部の全面的な協力のもと、工学部宗本順三教授の助言を得て、東大路通りにじかに面した、開放感あふれる建物として作り上げることができました。この建物には、夜間にも京都大学周辺の風景にアクセントを与え、美観を添えるべく、東大路通り沿いの壁面に照明装置を組み込んでいます。

新館のオープン後には毎夜点灯する予定ですが、竣工に先立ち8月16日、大文字の点火前の午後7時から7時45分まで試験点灯しました。

大学の緊縮財政の中、この照明にかかる電力は極力節約した設計としてあり、また博物館建物屋上には太陽発電パネルを設置し、環境やエネルギーにも配慮した上で美観を演出しています。今後キャンパスの建築のトレンドにも良いお手本となるものと自負しております。

(総合博物館)

梨花女子大学主催ワークショップへの参加

7月18日から22日までの間、韓国の梨花女子大学主催の‘Women Leadership of the New Millennium in East Asia : China, Japan and Korea’に関するワークショップに、本学的女子学生の推薦依頼があり、国際交流委員会で選考の結果、経済学部3回生根津綾子さんを推薦した。

同ワークショップには、中国、日本、韓国の三カ国から女子学生が招かれ、5日間にわたって熱心な討議が続けられ、今回参加した根津さんから次のような感想が寄せられた。

(国際交流委員会)

ワークショップに参加して

経済学部3回生 根津 綾子

2000年7月18日から22日までの五日間、韓国ソウルの梨花女子大学主催の‘Women Leadership of the New Millennium in East Asia : China, Japan and Korea’に関するワークショップが開催された。日・

中・韓の三カ国から三年次・四年次の大学生が全部で百名余り集まった。集まりの性質上参加者は女性のみで、経済学、法学、環境学、国際関係等社会科学系の学問を専攻している人がほとんどだった。私

は環境経済学専攻の京大生としてこのワークショップに参加させていただいた。

五日間の日程の核となるのが四つのセッション及びワークショップ・ディスカッションである。①グローバル化と経済開発、②美術と文化、③知識・情報・サイエンスとテクノロジー、④生命・環境・人間の価値という四大テーマを掲げ、それぞれの分野で女性がどんな風にリーダーシップを発揮し、「女性として」問題解決に積極的に携わっていくにはどうすればいいかを考えようというものである。私は①と④に参加した。①では各国の経済の特質について意見が交換された。日・韓は「系列会社」制をはじめ、おどろくほどよく似ているのに対し、中国はそもそも社会体制そのものが根本から異なるため、それに伴って女性の社会進出の度合いも全く異なるということが明らかになった。まだまだ女性の社会的地位に制限のある日・韓に対し、中国の女性は教育から就職にいたるまであらゆる場面で完全に男女平等が浸透しているとのことであった。④では、生命倫理、特に遺伝子工学が議論の対象となり、各国の遺伝子操作に対する規制の状況、その有るべき姿などについて話し合った。だが、「ヒューマンゲノムプロジェクト」と出生前診断とを混同していた人が多く、感情的な意見が多発し、今一

つ建設的な議論になりきらなかったのが残念だった。

最終的に、五日間のワークショップで以下のような総括にたどり着いた。

論理的、分析的、批判的特質により形成された今世紀に対し、21世紀は繊細さ、同情、感情、創造性を特徴とする emotional paradigm を軸に形成されていくということ、そして後者はより女性的な属性であるといえることから、来世紀における女性の役割はますます重要になっていくことは確実である。

今回のワークショップに参加したことで、それまで気付きもしなかったことが色々と気になり始めた。身近なことから言えば、京大における女性の比率（特に教授陣のそれ）はなぜこんなに低いのか。そして、私を始め京大の女子学生の大部分がそのことにさして違和感を抱いていないように見えるのはなぜなのか。また、日本社会全体で言えば、女性の大学進学率の高さと社会進出度のずれはどう説明されるのか、といったことである。日本では、ひょっとすると成功している女性ほど男女差別というもの存在を否定する傾向があるのではなからうか。女性の社会進出を阻んでいる障害の一つは他ならぬ女性なのかもしれない。

国立七大学総合体育大会 2 連覇

本学が主管校となった第39回国立七大学総合体育大会は、昨年12月11日（土）の「アイスホッケー」を皮切りに8月11日（金）までの間、36競技種目にわたり熱戦が繰り広げられた。

7月15日（土）には、本学総合体育館で開会式が開催され、開幕パレードや、模擬店、応援団の演舞、文化系クラブによる演奏・演劇、ピンゴ大会などを内容とした「七大戦祭り」も行われ、大会の雰囲気盛り上げた。

本学は「馬術」を始め10種目で1位と圧倒的な強さをみせ、2位以下の大学に大差をつけて昨年度に引き続き総合優勝（通算優勝回数は11回）を果たした。

なお、本大会の成績結果は、次のとおりである。



第39回 国立七大学総合体育大会 成績表

競技名	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー	1位	10	6位	2	5位	3	3位	6	4位	4	2位	8	7位	1
航空(グライダー)	7位	1	4位	4	2位	8	1位	10	5位	3	3位	6	6位	2
馬術	3位	4	4位	3	2位	6	5位	2	1位	8			6位	1
準硬式野球	不参加	0	1位	10	5位	3	6位	2	3位	6	2位	8	4位	4
硬式野球	6位	2	不参加	0	4位	4	3位	6	1位	9	5位	3	1位	9
少林寺拳法	7位	1	5位	3	6位	2	2位	8	1位	10	3位	6	4位	4
ソフトテニス(男子)	2位	8	4位	4	7位	1	1位	10	5位	3	3位	6	6位	2
" (女子)	2位	8	6位	2	不参加	0	1位	10	4位	4	5位	3	3位	6
剣道(男子)	6位	2	3位	6	4位	4	5位	3	1位	10	7位	1	2位	8
" (女子)	7位	1	3位	6	5位	3	6位	2	1位	10	2位	8	4位	4
硬式庭球(男子)	7位	1	1位	10	6位	2	3位	6	4位	4	2位	8	5位	3
" (女子)	2位	8	6位	2	7位	1	3位	5	3位	5	1位	10	5位	3
バスケットボール(男子)	7位	1	6位	2	1位	10	4位	4	2位	8	5位	3	3位	6
" (女子)	1位	10	6位	2	7位	1	5位	3	4位	4	2位	8	3位	6
ハンドボール	4位	4	6位	2	7位	1	5位	3	1位	10	2位	8	3位	6
空手	7位	1	6位	2	3位	6	1位	10	2位	8	5位	3	4位	4
柔道	2位	8	3位	5	不参加	0	3位	5	1位	10	5位	2.5	5位	2.5
水泳	1位	10	4位	4	5位	3	3位	6	2位	8	6位	2	7位	1
陸上競技(男子)	6位	2	4位	4	1位	10	3位	6	2位	8	5位	3	7位	1
" (女子)	1位	10	7位	1	4位	4	2位	8	5位	3	6位	2	3位	6
ヨット	4位	4	5位	3	6位	2	7位	1	2位	8	3位	6	1位	10
バレーボール(男子)	4位	4	3位	6	5位	3	2位	8	1位	10	6位	2	7位	1
" (女子)	4位	4	5位	3	3位	6	1位	10	6位	2	2位	8	7位	1
弓道(男子)	2位	8	1位	10	4位	4	6位	2	3位	6	5位	3	7位	1
" (女子)	3位	6	2位	8	5位	3	7位	1	4位	4	6位	2	1位	10
卓球(男子)	4位	4	7位	1	1位	10	3位	6	6位	2	2位	8	5位	3
" (女子)			2位	4	3位	3			1位	6	4位	2	5位	1
ラクロス(女子)	4位	2.5	3位	4	1位	8	2位	6	4位	2.5			6位	1
体操	1位	10	5位	3	2位	8	6位	2	4位	4	3位	6	不参加	0
アーチェリー	5位	3	3位	6	2位	8	不参加	0	1位	10	4位	4	6位	2
バドミントン(男子)	2位	8	3位	6	6位	2	4位	4	5位	3	7位	1	1位	10
" (女子)	2位	8	5位	3	6位	2	4位	4	7位	1	3位	6	1位	10
ゴルフ	5位	3	3位	6	7位	1	1位	10	2位	8	6位	2	4位	4
フィールドホッケー	2位	4			1位	6			4位	2	3位	3	不参加	0
自動車	3位	6	1位	10	2位	8	6位	2	7位	1	4位	4	5位	3
フェンシング	不参加	0	1位	8	3位	4			2位	6	4位	3	5位	2
総合順位 総合得点	3位 166.5		5位 155		6位 150		2位 171		1位 210.5		4位 158.5		7位 138.5	

近畿地区国立大学体育大会

兵庫教育大学の主管で開催された第38回近畿地区国立大学体育大会は、5月7日(日)から8月27日(日)まで、29種目の競技が行われ、本学は、「陸

上競技(男子)」及び「水泳(男子)」の種目で1位となり、14大学中、男女とも総合4位と健闘した。
 なお、本大会の成績結果は、次のとおりである。

第38回 近畿地区国立大学体育大会 成績表

得点表(男子)

種目名 \ 大学名	滋大	滋医大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	神大	神船大	奈教大	和 大	兵教大
陸上競技			10			5		7				4	
水泳			10			4		7	5				
野球				4				5	10		7		
軟式野球	10					5		7	4				
テニス	4					5		10	7				
ソフトテニス			4 5			4 5	10					7	
バスケットボール			7	4				5	10				
バレーボール			7	10					4 5		4 5		
サッカー				10			4	5	7				
ラグビー			7					10	4 5			4 5	
卓球						10		7	5				4
バドミントン				5	4	7		10					
柔道			7	5		4			10				
剣道			4 5			4 5		7	10				
体操競技			5			10		7					
ハンドボール				7	4	5		10					
弓道					7	4			10			5	
計	14	0	62	45	15	68	14	97	87	0	11 5	20 5	4
順位	8	12	4	5	7	3	8	1	2	12	10	6	11

得点表(女子)

種目名 \ 大学名	滋大	滋医大	京大	京教大	京工大	阪大	大外大	大教大	神大	神船大	奈女大	奈教大	和 大	兵教大
陸上競技				10				7					5	4
水泳	7		4					10	5					
テニス			4	7		10		5						
ソフトテニス	7		4 5				10							4 5
バスケットボール			4	10				7			5			
バレーボール	7							4 5				10	4 5	
卓球								10	7					5
バドミントン				7			4	10				5		
剣道			4 5	7				10			4 5			
体操競技				7				10					5	
ハンドボール				7				10					5	4
弓道					10		4 5	4 5				7		
計	21	0	21	55	10	10	18 5	88	12	0	9 5	22	19 5	17 5
順位	4	13	4	2	10	10	7	1	9	13	12	3	6	8

体験授業「放射線って何だろう」

放射性同位元素総合センターでは、中学生・高校生・教職員を対象とした体験授業「放射線って何だろう」を8月28日(月)に本センター教育訓練棟を会場に開催した。本センターで開催する体験授業は、昨年度に引き続き2回目である。

昨年は、高校生を対象としていたが、今回は、その対象を中学生まで広げ、放射線・放射性同位元素をより分かりやすく説明した。実施にあたっては京都府・京都市教育委員会の後援を得て、府・市内の中学、高校に体験授業の案内を送付した。また、本センターのホームページにもその詳細を載せることにより、広く参加者を募ることに努めた。その結果、京都府以外の高校からもインターネットを通じて本体験授業を知り、参加する生徒もあった。当日の参加者は、中学生13人、高校生14人、一般4人の計31人であった。

体験授業のプログラムは次のとおりである。

13:00~13:05	挨拶	センター長 寺島 泰
13:05~14:00	講義	「生活の中の放射線」 教授 五十棲泰人
14:00~16:10	実習	「放射線をとらえる」
	実習	「放射線をみる」
16:10~16:30		質問コーナー

寺島 泰センター長の挨拶の後、五十棲泰人教授による講義「生活の中の放射線」で生活・環境周辺の放射線の存在について分かりやすい解説がなされた。昨年度の企画でも考えたことは、実習の充実である。放射線・放射性同位元素を利用する実習を行うには、時として法律の規制や小さいながらも放射線被曝が足かせとなり、その実行に踏み切れない場合が多い。本体験授業では、天然に存在する放射性同位元素を利用することにより、このような心配事を無くす工夫をした。まず、実習「放射線をとらえる」では、基本的な放射線検出器であるGMサーベイメータを2人に1台貸し出し、天然の放射性物質や周辺の放射線を計測することにより放射線の存在

を実感した。参加者は、初めて手にする放射線検出器を“ピッ、ピッ……”と鳴らしながら興味深く周辺を測定して回っていた。自然にも放射線が存在することが実感できたようである。

実習「放射線をみる」では、ビーカや空き缶を使った霧箱を3人1組で製作した。製作した霧箱の中に、空気中の塵を効率良く捕集して得られた放射線源(ラドンの娘たち)を入れて放射線が飛ぶ様子(飛跡)を実際に観察した。自分たちで作った霧箱で放射線が見えた瞬間には、大きな歓声が沸きあがった。実験室ならどこにでもあるビーカやクッキーの空き缶が放射線検出器となる。こんなところも大きな驚きとなったようである。

本センターは、共同利用施設として放射線施設を学内研究者に提供するとともに、学内の放射線管理の中心的役割を担うのが本来の業務であるが、中学、高校時代に放射線の基礎教育がなされていない現在、その役割の一端を本センターが行うのは、大事なことを考えている。また、最近の放射線に関する話題には暗いものが多いが、このような時こそ放射線を正しく理解するために中学生、高校生、一般を対象にした放射線の基礎教育が必要である。本体験授業の受講者のアンケートからもこの放射線の基礎教育の必要性を読み取ることができた。



GMサーベイメータで天然の放射性物質を計測する

(放射性同位元素総合センター)

お知らせ

附属図書館公開展示会 連歌の世界

附属図書館では、日常接することのできない貴重な所蔵資料の紹介を兼ねて、毎年この時期に一般公開展示会を開催し、学内教職員・学生のみならず、学外の研究者、一般市民の方々にも好評を得ております。昨年の展示会「お伽草子」には2,000人の来場者を得、大学公開事業の一端を担ってきております。

今回は、「連歌」に焦点をあて、附属図書館及び文学部が所蔵する貴重書を中心として展示します。

「連歌」は、日本の詩の歴史の中で古代和歌から派生し、近世の俳諧の基礎となったもので、五七五（長句）に、七七（短句）を付け、さらに五七五を付けるといったように交互に数人で詠む文芸です。和歌と異なり、一句一句が独立した内容をもっています。

連歌前史にあたる万葉集から日本書紀、全盛期へと時代を辿って展示することとしております。

また、同時期（13日～17日）に附属図書館を会場として「2000年電子図書館国際会議」が開催されますので、併設展として、電子図書館の歴史並びに制作過程、コンテンツの一部資料の展示も行います。

1. 公開展示会（併設展含む）

期 間 11月1日（水）～11月17日（金）（土・日も開館、ただし3日は休館）
 時 間 午前10時～午後5時（入場は、午後4時30分まで）
 会 場 附属図書館展示ホール（3階）

2. 記念講演会

演 題 連歌という遊び
 講 師 国際日本文化研究センター 光田和伸助教授
 日 時 11月10日（金） 午後1時30分～午後3時
 会 場 附属図書館 AV ホール（3階）

問い合わせ先：京都大学附属図書館秋季公開展示会実行委員会
 附属図書館情報サービス課
 電話：075 - 753 - 2626

公開展示会（併設展含む）及び記念講演会への入場は無料です。
 電子図書館国際会議には、すでに参加登録されている方以外の参加はできません。

（附属図書館）



〔宗祇法師画像〕

連歌を和歌に匹敵する高度な文学に成長させた室町時代の連歌師西行、芭蕉とならんで放浪三代詩人と呼ばれ、2002年は没後500年にあたる

総合博物館（南棟）完成に伴う通路変更について

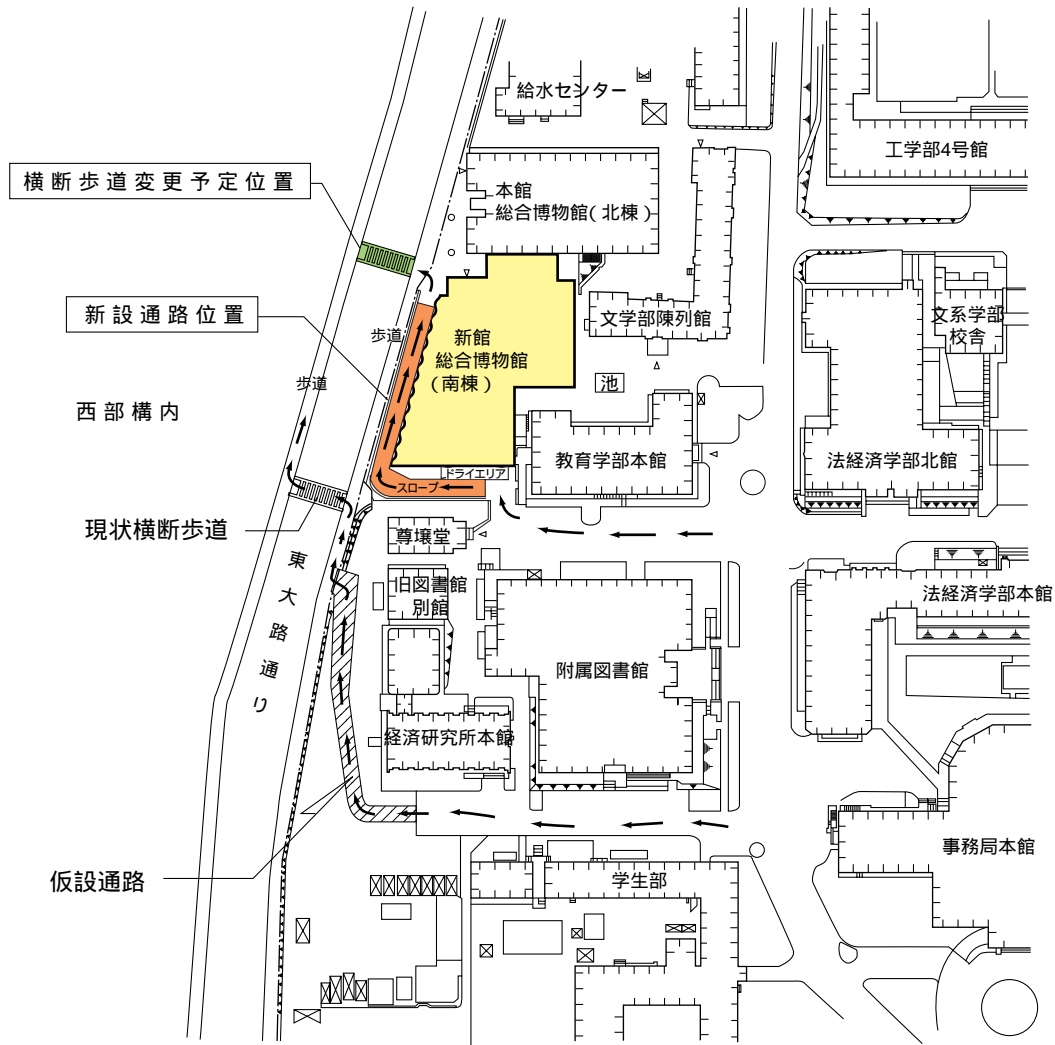
総合博物館（南棟）の完成に伴い、西部構内への通路が変更になります。
併せて横断歩道の位置も、変更になります。

〔仮設通路使用期間〕




平成12年10月31日（火）まで

〔新設通路使用開始〕

平成12年11月1日（水）から



凡例

-  仮設通路
-  新設通路位置
-  横断歩道変更予定位置